

2027年2月期 第1四半期決算短信 (日本基準) (連結)

2026年7月14日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ
コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 ベジ
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 ベジ
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-6635-1847

(百万円未満切捨て)

1. 2027年2月期第1四半期の連結業績 (2026年3月1日～2026年5月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年2月期第1四半期	455	△4.8	△66	—	△64	—	14	—
2026年2月期第1四半期	478	△12.4	△71	—	△70	—	△72	—

(注) 包括利益 2027年2月期第1四半期 △31百万円 (—%) 2026年2月期第1四半期 △69百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期第1四半期	5.98	—
2026年2月期第1四半期	△30.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年2月期第1四半期	2,956	715	24.2
2026年2月期	3,247	746	23.0

(参考) 自己資本 2027年2月期第1四半期 715百万円 2026年2月期 746百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年2月期	—				
2027年2月期 (予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年 2月期の連結業績予想 (2026年 3月 1日～2027年 2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期 (累計)	955	3.9	△113	—	△100	—	△104	△43.99
通期	1,890	0.9	△153	—	△124	—	△132	△55.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年2月期1Q	2,567,064 株	2026年2月期	2,567,064 株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2027年2月期1Q	203,332 株	2026年2月期	203,322 株
------------	-----------	----------	-----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2027年2月期1Q	2,363,739 株	2026年2月期1Q	2,363,953 株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、半期報告書に合わせて、切捨てとしております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境改善の動きが続き、緩やかな回復基調を維持している一方で、米国やイスラエルによるイランへの攻撃があり、中東地域をめぐる情勢を起因とした原油価格や資源価格の高騰などの懸念材料が多く、依然として経済環境は先行き不透明な状況です。

当アパレル業界では、一部にインバウンド需要はあるものの、生活必需品を中心として物価高騰が継続する中、消費者の節約志向は根強く、慎重な消費マインドから、先行きの需要環境は厳しい状況下にあります。

このような状況のもと当社グループは、当社製品ターゲット層の購買に対する価値観とニーズに則してお買い求めやすい価格帯の商材供給に取り組み、店頭販売数量拡大と適正利益の確保に努め、厳しい消費環境に対処してまいりました。また、専門店卸販路の回復にも注力するほか、製造固定費や変動費の抑制、合理化策に継続して取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4億55百万円（前年同期比4.8%減）となりました。損益面におきましては、販売費及び一般管理費の抑制に努めましたものの、営業損益は66百万円の損失（前年同期は71百万円の損失）、経常損益は64百万円の損失（前年同期は70百万円の損失）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は、投資有価証券売却益があり14百万円の利益（前年同期は72百万円の損失）となりました。

セグメント別の経営成績の概要は次のとおりです。

<卸売事業>

百貨店販売事業においては、衣料消費の多様化が進む中、若年層の消費者離れや既存顧客層の高齢化進行により、衣料品需要の低下傾向が進む中、市場環境の変化に対応して、消費者がお買い求めやすい商品価格で提供することにより、若い世代の客層の集客アップに努めるとともに、新規顧客の獲得を積極的に実行して、売上回復と粗利益の確保に取り組んでまいりました。

また、当社の商品企画や発注時期を継続して実需期に引き付けるようにするとともに、自社の企画力や技術力およびマーケティング力を向上させるための社員教育を積極的に継続しております。

専門店販売事業においては、取引条件や不採算取引の改善に継続して取り組み、受注から実需までのリードタイムを短縮することにより店頭消化の精度向上を図り、収益面の改善に努めるとともに、アパレル卸として新規取引・新販路開拓に取り組んでまいりました。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億68百万円（前年同期比9.8%減）となり、営業損益は48百万円の損失（前年同期は58百万円の損失）となりました。

<小売事業>

卸売事業と同様に、店頭の売上が厳しい中、立地別、既存店舗別の効率改善に取り組んでおります。お客様視点の魅力ある品ぞろえの強化、効果的な販売促進策を講じて店頭活性化を図り、新規顧客の獲得に努め、損益改善に努めてまいりました。また、本部による経費の効率的運用を継続して行っております。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は2億83百万円（前年同期比1.6%減）となり、営業損益は9百万円の損失（前年同期は4百万円の損失）となりました。

直営店数につきましては、当第1四半期連結累計期間に新規出店、退店はなく、同期間末の運営店舗数は当社グループ合計で32店となりました。

<福祉事業>

当社グループの社会福祉への取り組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、継続して採算性改善に努めております。

当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は2百万円（前年同期比3.0%増）となり、営業損益は7百万円の損失（前年同期は8百万円の損失）となりました。

なお、福祉事業に関しましては、就労支援事業運営費収入5百万円の営業外収益などがあり、当第1四半期連結累計期間の四半期純損失は3百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて2億90百万円減少し、29億56百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1億98百万円の減少となり、10億38百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少1億78百万円、商品及び製品の減少18百万円などがあつたことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ92百万円の減少となり、19億18百万円となりました。これは主に、投資有

価証券の減少93百万円などがあったことによります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億59百万円減少し、22億41百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ46百万円減少し、15億66百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金の増加1億88百万円があった反面、短期借入金の減少2億34百万円があったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2億13百万円減少し、6億74百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少1億90百万円などがあったことによります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて31百万円減少し、7億15百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少43百万円などがあったことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2026年4月20日に公表しました業績予想から変更はありません。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、第71期（2019年2月期）以降から継続して、営業損失を計上しております。当第1四半期連結累計期間において営業損失66百万円、経常損失64百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益14百万円を計上したことで、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金は3億12百万円となりました。

これらの状況により、当社グループの資金繰りに重要な懸念が生じていることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭V.P（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新規顧客の獲得、増大を図っております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。また、自社で保有する資産の売却等による資金化の早期実施に努めてまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	490,325	312,037
受取手形、売掛金及び契約資産	229,063	228,649
商品及び製品	465,481	447,390
仕掛品	14,379	29,667
原材料及び貯蔵品	1,747	1,747
その他	37,581	21,263
貸倒引当金	△2,129	△2,526
流動資産合計	1,236,448	1,038,231
固定資産		
有形固定資産		
土地	941,058	941,058
有形固定資産合計	941,058	941,058
投資その他の資産		
投資有価証券	801,036	707,098
差入保証金	167,422	167,422
退職給付に係る資産	97,343	98,993
その他	9,813	9,775
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	1,069,621	977,294
固定資産合計	2,010,679	1,918,352
資産合計	3,247,128	2,956,584

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	158,227	127,327
電子記録債務	5,705	5,182
短期借入金	1,059,199	824,863
1年内返済予定の長期借入金	129,857	318,142
未払金	175,899	195,131
未払費用	46,849	46,658
未払法人税等	8,534	10,579
契約負債	7,396	7,408
その他	20,819	30,968
流動負債合計	1,612,488	1,566,262
固定負債		
長期借入金	590,328	400,128
繰延税金負債	131,008	108,111
資産除去債務	157,478	157,478
長期預り保証金	3,208	3,208
その他	5,961	5,961
固定負債合計	887,985	674,888
負債合計	2,500,473	2,241,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	△393,976	△379,817
自己株式	△246,290	△246,292
株主資本合計	238,997	253,154
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	497,583	453,825
退職給付に係る調整累計額	10,073	8,454
その他の包括利益累計額合計	507,657	462,280
純資産合計	746,654	715,434
負債純資産合計	3,247,128	2,956,584

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）
売上高	478,289	455,461
売上原価	171,389	183,379
売上総利益	306,900	272,082
販売費及び一般管理費	377,961	338,754
営業損失（△）	△71,061	△66,671
営業外収益		
受取利息	6	3
受取配当金	—	260
助成金収入	5,451	5,075
雑収入	1,481	3,731
営業外収益合計	6,939	9,071
営業外費用		
支払利息	6,424	6,983
その他	—	8
営業外費用合計	6,424	6,992
経常損失（△）	△70,546	△64,593
特別利益		
投資有価証券売却益	—	80,796
特別利益合計	—	80,796
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△70,546	16,203
法人税、住民税及び事業税	2,126	2,045
法人税等合計	2,126	2,045
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△72,673	14,158
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△72,673	14,158

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△72,673	14,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,509	△43,757
退職給付に係る調整額	△11,596	△1,619
その他の包括利益合計	2,913	△45,376
四半期包括利益	△69,759	△31,218
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△69,759	△31,218
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）以降から継続して、営業損失を計上しております。当第1四半期連結累計期間において営業損失66百万円、経常損失64百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益14百万円を計上したことで、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金は3億12百万円となりました。

これらの状況により、当社グループの資金繰りに重要な懸念が生じていることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭V.P（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新規顧客の獲得、増大を図っております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。また、自社で保有する資産の売却等による資金化の早期実施に努めてまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
セグメント損失（△）	△58,295	△4,316	△8,449	△71,061	—	△71,061

(注) セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2026年3月1日 至 2026年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	168,751	283,877	2,833	455,461	—	455,461
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	168,751	283,877	2,833	455,461	—	455,461
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	168,751	283,877	2,833	455,461	—	455,461
セグメント損失（△）	△48,801	△9,980	△7,889	△66,671	—	△66,671

(注) セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。